令和２年度夢アイデア応募作品

夢自慢・アイデア自慢　全国コンクール

このアイデアは、建設コンサルタンツ協会の九州支部で取り組んでいる「夢アイデア事業」を全国版にし、かつ、総理府や国土交通省からも着目され、様々な団体でも取り組めるようにするために提案するものです。

Ｉ．仕組みを、順を追って説明します。

ステップ１．

九州支部で行っていることを全国支部でも行います。

その場合、募集に際して、優秀作品に選ばれると「夢自慢・アイデア自慢　全国コンクールに参加することになります」とアナウンスしておきます。

募集のキャッチフレーズは、“夢のような話を、本気でしよう”

です。

“こうしたら地球温暖化を阻止できる”

“こうしたらバランスある国土が創れる”

なども併記して、スケールの大きな作品を期待します。

各支部はやり方に慣れていただくまで、とりあえず九州支部に準じますが、賞金などはコンクールの受賞者に回します。

ステップ２．

各支部２～３点ずつ選んでいただき全国コンクールに参加します。しばらくは東京で開催します（いずれ各支部持ち回りも……）。

ステップ３．

NHK、あるいは民放に相談してコンクールの様子を全国配信してもらいます。

表彰は、鐘３つで入賞作品を決めて表彰するとともに、内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞、総務大臣賞、国土交通大臣賞なども与えます。（ただし、行政府は、賞以外の、補助金とか、口出しも一切しない条件です）

ステップ４．

コンクール出典作品は、「夢自慢・アイデア自慢」の本として出版します。実現化の動きなど現地のルポなども同時に報告します。

ステップ５．

外交上問題がない国々を対象に、夢アイデア手法を呼びかけます。最初は、在外日本人会に働きかけるのもいいでしょう（ご婦人方は暇でひまで。毎日おしゃべりばかり）。

Ⅱ．夢アイデア事業を全国版にする意義

デジタル庁の創設には、行政の効率化のみならず、創造的なアイデアも期待されるでしょう。AI 機器への依存のほか、忘れてならないのは人の脳の高度な機能です。

脳の働きはアナログであって、夢アイデアという創造的な活動分野で特に期待されるのが、“ヒラメキ”です。デジタルかアナログか、面白い競争になるとは思われませんか。

　でもどちらに軍配が上がるか、ではなくて、私は、双方を車の両輪として日本の未来創造に用いるのがベストだと思っています。

　毎年、多くの作品を応募される団体のリーダーの感想です。

「夢を聴いていただく機会を提供していただくこと自体、ありがたいし素晴らしい。発表した子どもたちの得難い経験は励みになり、生涯の思い出になるでしょう」

　宮崎県の西米良村には、応募アイデアの実現化の一環として、秋の数日、九州一円の大学生二十数名が訪れて村おこしの実践活動をやっています。その講師としてご指導を賜っている鹿児島大学山田誠先生（法文教育学域 法文学系名誉教授）の意見です。

「西米良村での学生の体験は、彼らに成長の場を与え、受け入れる村の住民は学生が来ることを待ちわびるようになっている。その相乗効果が素晴らしい。なぜこんな仕組みが全国に広まらないのか、もっと全国版にする努力を皆さん（建設コンサルタンツ協会）はしてほしい。最初、講師としての協力を依頼され、夢アイデア事業が業界団体主催と聞いた時、それだけで業界の利益のためにやっていると思って毛嫌いしたが、それが間違いだと気づいた」

この意見もあって、九州と同じことを全国で実施することはかねての悲願です。さらに一歩高みを目指そうではありませんか。その実現策として表題のコンクールを提案した次第です。